

ご使用前に必ず取扱説明書をお読み下さい。

このたびはイージーアップ・テントをお買い上げいただき、

まことにありがとうございました。

イージーアップ・テントは部品がすべて

一体化していますので、フレームを開閉するだけで、

素早く設営や収納ができ、

従来のパイプ式組立テントと比べ、

利便性が大きく向上しています。

しかしながら、従来型のパイプ式組立テントと比べて

その利用範囲は限られています。

この取扱説明書をよく読んでいただき、

本製品の特性をご理解いただいたうえで、

適切な状況のもとご利用願います。

本書はお読みになった後は大切に保存してください。



もくじ

はじめに	1	パーツリスト	
梱包内容	2	DX25/DXA25	9
ご使用上の注意	3	DX30/DXA30	10
アフターサポート	4	DX45/DXA45	11
設営前準備	5	DX60/DXA60	12
設営	7	パーツ発注書	13
収納	8	動画説明のご案内	14

梱包内容をご確認下さい。

型番(材質) サイズ(重量)	天幕	フレーム	収納カバー
DX25(スチール) 2.5×2.5m(25kg)	○	○	○
DXA25(アルミ) 2.5×2.5m(19kg)	○	○	○
DX30(スチール) 3.0×3.0m(30kg)	○	○	○
DXA30(アルミ) 3.0×3.0m(23kg)	○	○	○
DX45(スチール) 3.0×4.5m(39kg)	○	○	○
DXA45(アルミ) 3.0×4.5m(30kg)	○	○	○
DX60(スチール) 3.0×6.0m(53kg)	○	○*1	○
DXA60(アルミ) 3.0×6.0m(40kg)	○	○*1	○

原産国/中国

*1 DX60/DXA60は、フレームA、Bの2箱でお届けします。



安全にお使いいただくために設計しています。
簡易利用を前提に設計しています。
イージーアップ・テントは、

使用上の ご注意



悪天候時の破損には保証がききません



本テントは簡易利用を目的として設計されており、常設には適していません。
また、風対策品をご活用いただいても、風・雨・雷・雪など悪天候の場合は、テントが破損する恐れがありますので、ご利用はおやめください。
天候不順が原因で破損したテントのクレームには一切保証がききませんので、あらかじめご了承ください。

強風時は使用しないでください



目安として、ビューフォート風力階級の[6]かそれ以上の状況では使用しないでください。なお、[5]かそれ以下の場合でも、突風によりテントが飛ばされないよう、風対策は必ず行なってください。

ビューフォート風力階級			
風力階級	風速(m/s)	地表物の状態(陸上)	使用可否
0	0.0≤0.2	静穏。煙はまっすぐに昇る。	○
1	0.3≤1.5	風向きは煙がなびくのでわかるが、風見には感じない。	○
2	1.6≤3.3	顔に風を感じる。木の葉が動く。風見も動き出す。	○
3	3.4≤5.4	木の葉や細かい小枝がたえず動く。軽く旗が開く。	○
4	5.5≤7.9	砂埃がたち、紙片が舞い上がる。小枝が動く。	○
5	8.0≤10.7	葉のある灌木がゆれはじめる。池や沼の水面に波頭がたつ。	○
6	10.8≤13.8	大枝が動く。電線が鳴る。傘はさしにくい。	×
7	13.9≤17.1	樹木全体がゆれる。風に向かっては歩きにくい。	×

類似品等にご注意ください

フレームの構造上、設営・収納ごとに天幕の脱着が必要であるにもかかわらず、それが不必要かのように偽ったPRを行なっている他メーカーもございます。脱着が必要であるかどうかは、その取扱説明書を確認されることをご判断できると思います。また、防災基準認定品をお求めの際は、「日本防災協会認定品」をご指定ください。
「中国」や「韓国」基準の認定でありながら(日本の基準には適合しない)「防災認定品」として販売している業者もありますので、ご注意ください。



返品交換は速やかにお願いします

商品到着後30日以内に、商品に問題がないかをご確認ください。期間を過ぎてからの返品交換はお受けできません。

初回使用時は天幕をフレームに固定する必要があります

DR/DX系モデルの天幕とフレームは、別々になってお届けします。(DMJ-DR30は1個口となります)
また、3.0×6.0mモデルはフレームがAとBに分かれていますので、合計3個口となります。

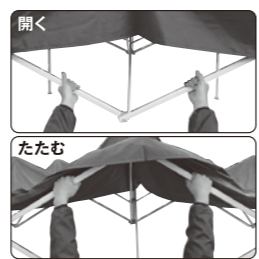


初回使用時は、設営前に天幕をフレームに固定する作業が全モデルに対して必要で、15~30分ほどかかります。詳しくは取扱説明書をご覧ください。
(DX60はフレームの組み立ても必要です)



フレーム開閉は決められた箇所を握ってください

天幕をフレームに固定した後は、収納・設営ごとの面倒な天幕脱着は必要ありませんが、フレーム開閉は必ず決められた箇所を握って行ってください。



テントを寝かせたまま保管・運搬はしないでください

テントの保管及び運搬は、常に立てた状態で行なってください。テントを寝かせたまま保管及び運搬をしますと天幕生地が傷んで穴が開く恐れがあります。寝かせたまま保管及び運搬をされる時は、あらかじめ天幕をフレームから取り外してください。

テント内外の温度差で結露が発生する場合があります

テントの生地には防水加工が施されていますので、外気との温度差が大きいと生地の内側の壁面に水滴がつくこと(結露)がありますが、水漏れではありません。テント内の換気を行うことで改善できます。

仕様・価格を変更する場合があります

仕様・価格変更及び商品の廃盤につきましては、予告なく行う場合があります。また、ご購入される商品は、色・仕様などがカタログに掲載されている内容と異なる場合があります。

しっかりメンテナンスして長くお使いいただける商品です。
有償修理はもちろん
パーツを注文してご自身で交換することも可能です。

アフター サポート



アフターパーツの供給は万全の体制です

すべてのモデルで、スペアパーツの供給体制を整えています。パーツリストを参照のうえ、パーツを注文して、ご自身で交換することも可能です。もちろん商品を送付いただいた際の修理も承ります。



※一部廃盤のモデルは、在庫がない場合があります。

修理の一例

イージーアップの各パーツは、ボルトおよびナットで結合されていますので、破損したパーツをご自身で交換することも可能です。例えば、トラスの交換は、天幕を取り外してフレームを半開きにした状態で行います。交換するトラスが固定されている3ヶ所のボルトおよびナットを、付属の工具で取り外し、スペアパーツと交換します。ご不明な点は、正規販売店、またはイージーアップホームページへお問合せください。



最も多い修理依頼はフレームの破損です

フレーム開閉時に、ロック解除を忘れたり無理な力をかけたりすると、フレームの変形や破損の原因となります。フレーム開閉は、必ず決められた箇所(ステッカーの位置)を握ってゆっくりと行ってください。また、風対策をしていないと強風で飛ばされ、大きな破損になる場合が多いので29ページを参考に、必ず風対策をしてご使用ください。



風対策
かんたんウエイト®
20kg仕様 装着例

天幕・横幕などの補修

小傷や小穴でも、修理せずそのままにしておくと次第に広がってしまい、直しにくくなります。特に天幕生地には、設置時に強い張力がかかりますので、破損初期段階でしっかりと補修することをお勧めします。天幕・横幕の補修は、正規販売店にご依頼・ご相談ください。

メンテナンスのために撤収時の注意点

設営時も撤収時も手軽なイージーアップですが、汚れ、湿気、傷や小穴などはできるだけ早く対処しておきたいものです。次回使用時にあわてなくていいように、チェックしてから収納しましょう。

チェックポイント

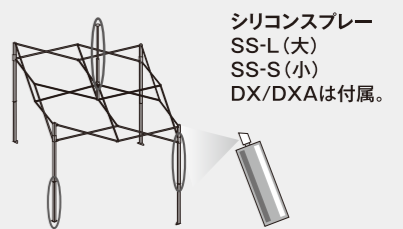
- フレームの濡れ、汚れ (特にスライド部の砂にご注意ください)
- 天幕の傷、穴の有無
- 天幕の濡れ、汚れ
- フレームのボルト緩み



汚れたまま、濡れたままの収納は厳禁です

土や砂、雨水など天幕の汚れは水拭きできれいに落とし天日でしっかり乾燥させましょう。またフレームの汚れは空拭きし、シリコンスプレーを吹き付けましょう。天幕が濡れていた、湿気を帯びたまま収納すると、カビが生えることがあり、フレームの錆につながります。

○印の部分にシリコンスプレーを吹き付けると、スライドしやすくなり、フレームの開閉がスムーズになります。



シリコンスプレー
SS-L(大)
SS-S(小)
DX/DXAは付属。

有償修理のご案内

イージーアップ・テントは、修理をして長くお使いいただける商品です。お客様がより安全にイージーアップ・テントをご使用いただけるよう、有償修理サービスをお受けいたします。天幕の破れ、フレームの破損など正常にテントが動作しない場合には、速やかに最寄りの正規販売店にご相談ください。詳しくは、正規販売店またはイージーアップ・テント ホームページへお問合せください。※モデルによっては修理をお受けできない場合もございますので、ご了承ください。

イージーアップ・テント ホームページ
<https://www.ezup.co.jp>

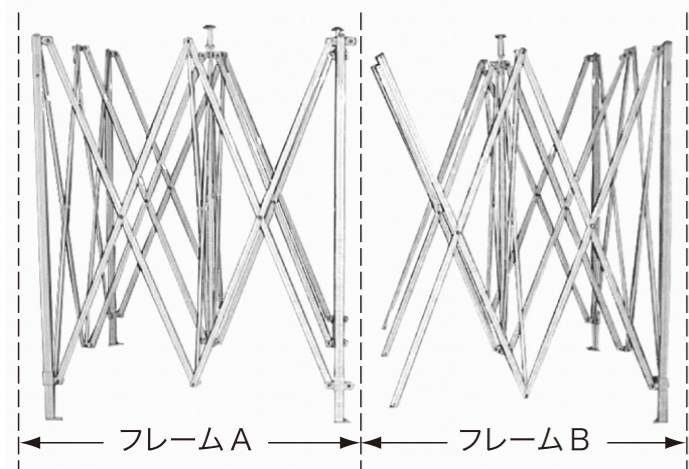
並行輸入品の修理について
並行輸入品の修理もご相談ください。ただし日本向けモデルと仕様異なる場合があります。修理できない場合もあることをご了承ください。

STEP 1 設営前準備

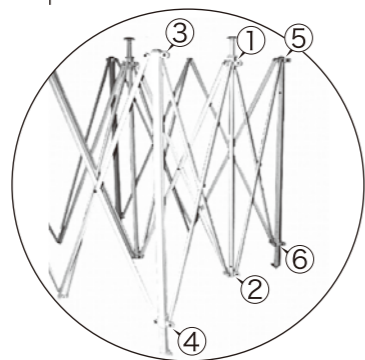
※ 《3.0m × 6.0m》の場合は、まずフレームを合体してください。

フレーム「A」と「B」の合体

1 平坦な場所にフレームAとBを置き、合体します。

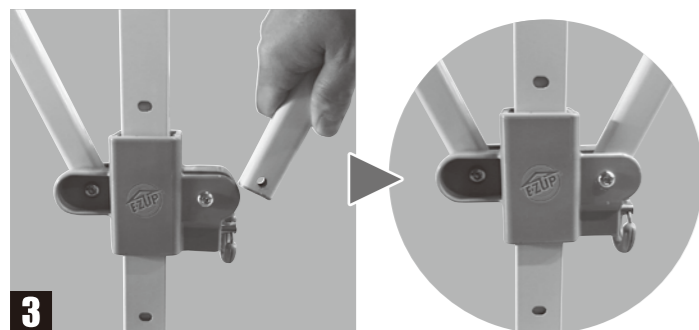
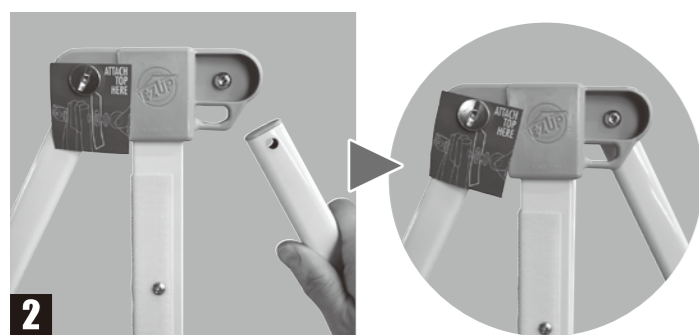


① 両フレームを半開きにして、向かい合わせてください。

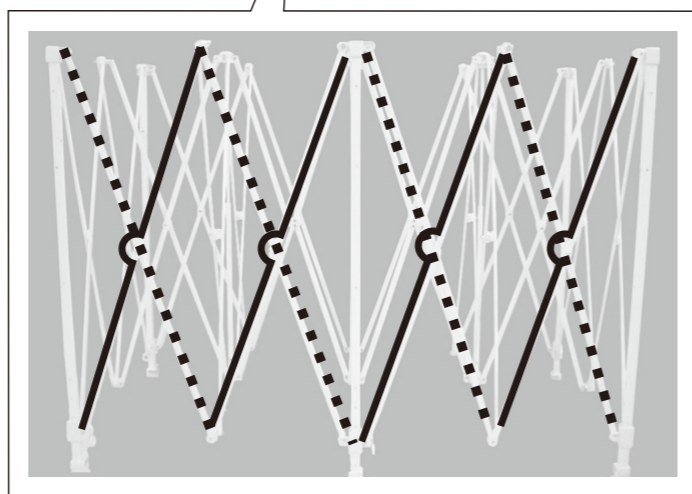
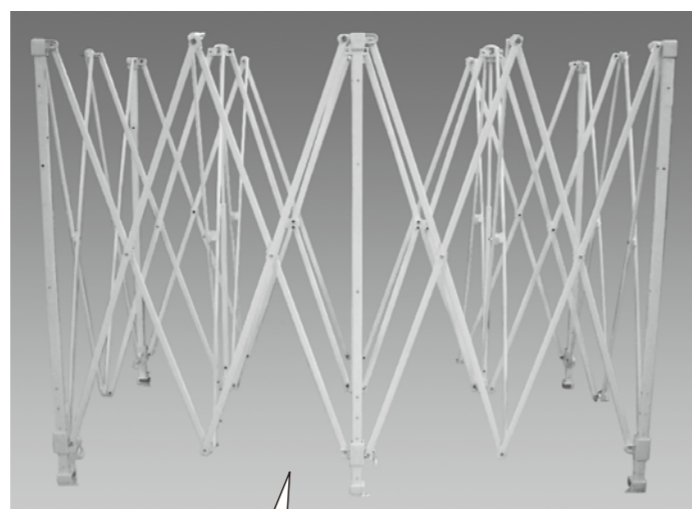


フレームAの数字の部分にボルトとナットが付いています。

② 付属のレンチを使い、ボルトでフレームを6ヶ所組み付けます。組み付け順は、中央の上部から始め、数字の順に進めてください。



4 完成



— テントの外側
 テントの内側でクロスします。

正しい付け方



誤った付け方



※ 《2.5m × 2.5m》《3.0m × 3.0m》《3.0m × 4.5m》の場合は、ここから始めてください。

天幕をフレームに固定

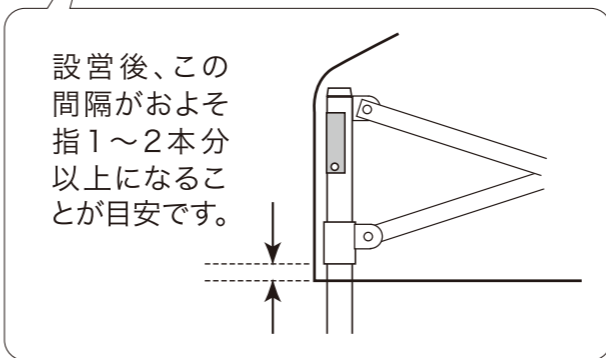
設営する前に、フレームに天幕を固定します。大人二人で作業してください。



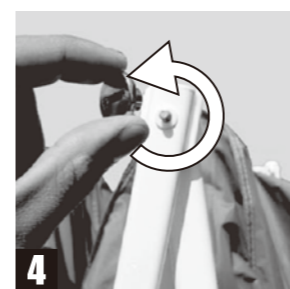
① 平坦な場所で、フレームを半分ほど開き、天幕をフレームにかぶせてください。



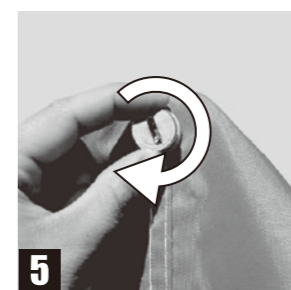
② 天幕角裏面のマジックテープを、支柱上部のマジックテープと仮合わせしてください。



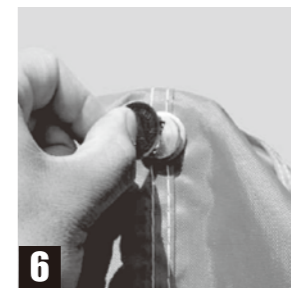
③ 天幕をフレームに固定します。まず、赤い紙が付いている場所を確認してください。



④ ナットを外して、赤い紙を破棄します。



⑤ 天幕をかぶせ、ハトメ穴を通して、ナットを締め直してください。

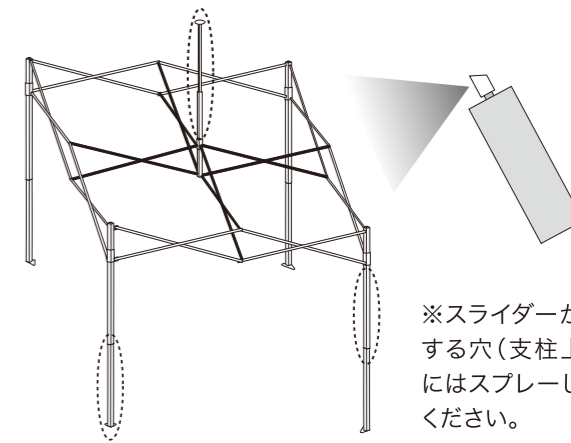


⑥ 付属の六角レンチとワッシャーで、きつく締めてください。

シリコンスプレー

○印の部分に噴きつけると、スライドがしやすくなり、フレームの開け閉めが簡単になります。特に梱包から取り出した直後の新品フレームには、噴きつけることをおすすめします。

注：各支柱の4面に噴きつけてください。

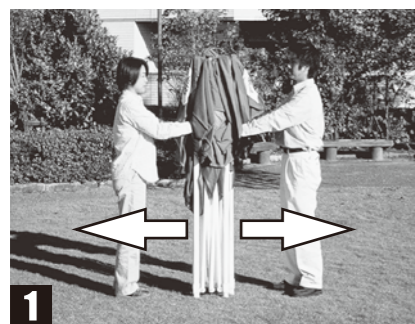


※スライダーがロックする穴(支柱上部側)にはスプレーしないでください。

【シリコンスプレー/別売り】

SS-L (大 : 420ml) SS-S (小 : 100ml)

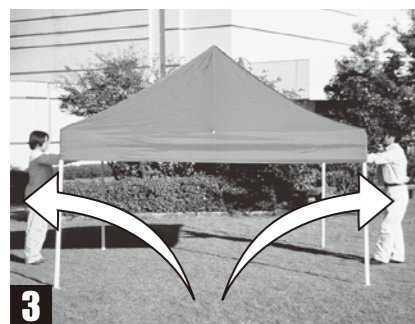
STEP 2 設営 (必ず大人2人で、同じペースで作業してください)



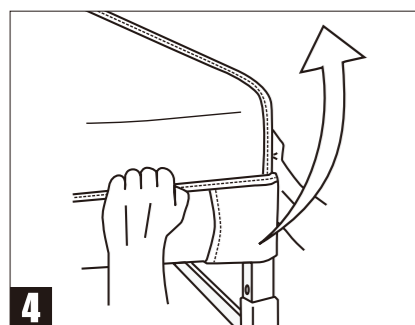
①支柱を両手でつかみ、テントを持ち上げながら後退します。
注)二人とも同じペースで進めてください。



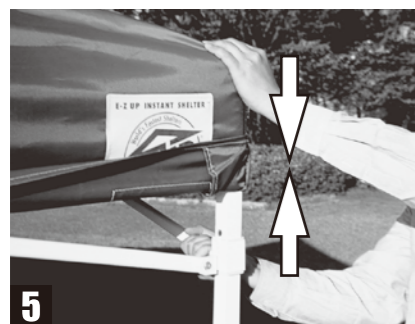
②しゃがんで、矢印の部分(ステッカー貼付位置)を握ります。



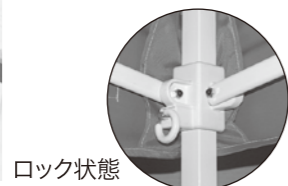
③フレームを宙に浮かせて、全開になるまで後退し、全開になったら静かにおろします。
注)少し揺らしながら後退してください。



④一人がフレームを支え、もう一人が次の工程に移ります。まず、天幕の角をめくりあげて…



⑤支柱上部を左手で押さえつけながら、右手で矢印部分を押し上げ、スライダーを全てロックします。



ロック状態



⑥支柱下部の付根プレートを踏みながら、支柱上部を握り、持ち上げます。



高さはL型ロックで調整してください。



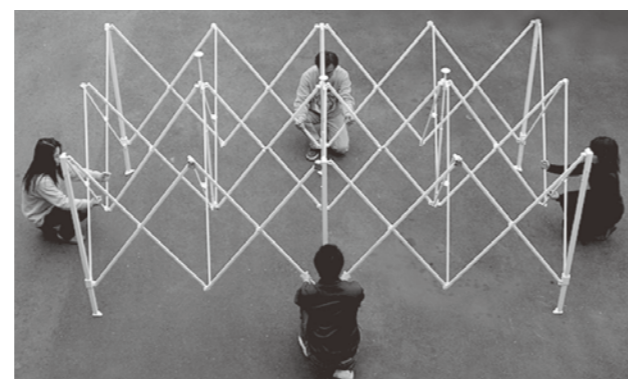
⑦反対側も持ち上げて完成です。傾斜や段差のある所では、支柱の高さをそれぞれ調整して、テントを水平に保ってください。

3.0m × 6.0m 設営のコツ

3.0m × 6.0mは、必ず大人2人か4人で設営してください。それ以外の人数での作業は、逆に設営が困難になります。



4人でコーナー支柱を握り、フレームを少し広げます。



各自ポジションを変えて、本ページ②以降の工程で設営します。

⚠必ず、風対策をしてご使用ください。

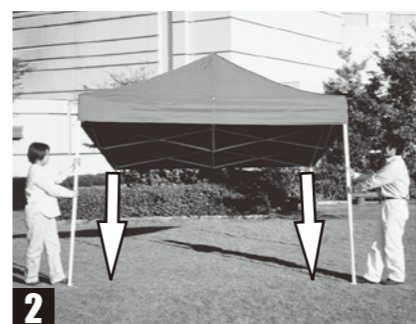
STEP 3 収納 (必ず大人2人で、同じペースで作業してください)



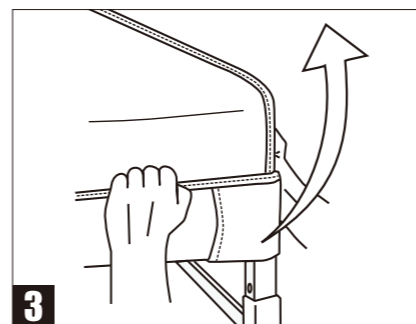
①支柱の高さ調整用L型ロックを押しで…



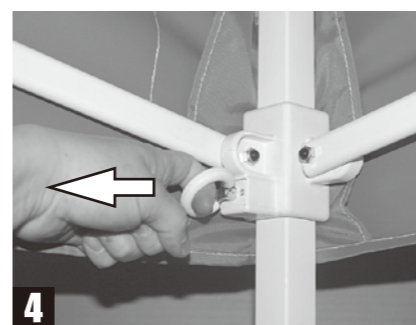
注)L型ロックに負荷がかかっていると押しにくいので、支柱を少し宙に浮かせてください。



②片側を引き下げで… 反対側も同様に引き下げ、全ての支柱を縮めます。

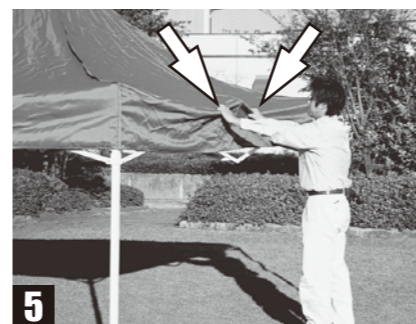


③天幕の角をめくりあげて…



④スライダーのプルピンリングを引っ張って、ロックを解除します。

注)ボタンに負荷がかかっていると引きにくいので、少し揺らしながら引いてください。

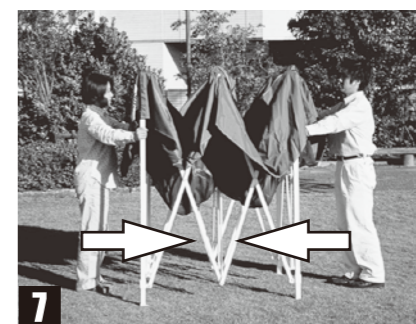


⑤矢印の部分を持ち、テントを持ち上げ、軽く揺すりながら前進します。

注)テントは完全に宙に浮かせて前進してください。



⑥半分程度閉まったら、テントを静かに下ろしてください。
注)このまま半分以上進むと、指を挟んで、怪我をする恐れがあります。



⑦支柱を握り、テントを持ち上げながら、中心部に向かってゆっくり押し込みます。

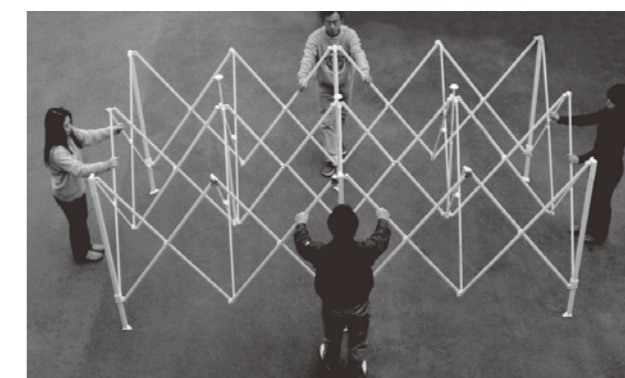


⑧収納カバーを上からかぶせて収納完了です。

注1)平坦な場所に立てて保管してください。
注2)収納カバーはフレーム全体を覆うものではありません。フレームの脚は一部露出します。

3.0m × 6.0m 収納のコツ

3.0m × 6.0mは、必ず大人2人か4人で収納してください。それ以外の人数での作業は、逆に収納が困難になります。



4人で図のようにトラスを握り、フレームを完全に注に浮かせ、少し揺さぶりながら、前進します。